

市民の皆さんの役に立つ所

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館は、昭和六一年度の開館から二九年間、なす風土記の丘資料館とともに、県内の歴史を学ぶ施設として、運営されてきました。

この四月から、なす風土記の丘資料館小川館は那珂川町に、しもつけ風土記の丘資料館は当市に移管となりました。(湯津上館は、平成二四年四月、大田原市に移管されています。)

これらの資料館が設立された背景は、昭和四一年まで遡り、この時、文化財審議会(現在の文化庁文化財部)により策定された「風土記の丘構想」が、その根幹となっています。

この構想が策定された昭和四〇年代後半は、急速な高度経済成長と国土開発により、自然や史跡、歴史的景観にまで破壊が及ぶような危機感が高まった時代でした。そのため、「各地域の歴史的・風土的特性をあらわす古墳・城跡など多くの遺跡等が残る地域に対して広域的な保存と環境整備を図り、地域に残された歴史資料を展示収蔵し、これらの遺跡と資料等の保存と普及活動をおこなう」ことを目的として全国一〇数か所に資料館が設置されました。

しもつけ風土記の丘資料館が設置された当時は、国史跡下野国府跡(栃木市)や当市の国史跡下野薬師寺跡・下野国分寺跡も史跡整備が行

われておらず、琵琶塚古墳(小山市)の調査も未着手で、各史跡を案内するための解説板でさえ未整備でした。

そのため、これらの国・県指定史跡が数多く残るこの地域を包括的に保存し、文化財の普及活動を行うため、県により資料館が設置されたわけです。

その後、栃木市(下野国庁資料館)・壬生町(歴史民俗資料館)、宇都宮市(飛山城体験館)、また当市(薬師寺歴史館)などの各自治体により、史跡の調査や整備、公開展示施設の設置などが進められました。

今回の移管に伴い、県内の広域的な埋蔵文化財に関する情報や出土資料の公開・展示については、風土記の丘資料館南側に所在する県埋蔵文化財センターが行うこととなりました。

これまでの資料館は、さらに地域密着型の施設として、下野国分寺跡や尼寺跡、甲塚古墳をはじめとした古墳や埴輪などに関する展示や体験学習ができる施設として、活用を図ることとなりました。

近年、古墳や古代寺院・官衙かんがが多く残るこの地域は、「東の飛鳥」とも呼ばれています。現在、自治体の枠を超えた協力体制ができあがり、市民をはじめ近隣市町の皆さまにも解説ボランティア

下野市教育委員会 生涯学習文化課

アなど様々なかたちでご協力をいただいております。

今後、市内はもとより、県内の小学生が古墳や国分寺などについて学習する時、関西にも引けを取らない立派な古墳や古代の寺院がここにもあったことを知ってもらえるよう、また、市民の皆さんが気軽に立ち寄っていただけるような施設の活用を下野市は目指してまいります。

